

SOS ニュース

子どものサインに気付いていますか

人間は悩みや悲しみ、苦しみがあるときは必ずサインを出します。日々の生活の中で「子どもの何気ない一言やしぐさ」について、アンテナを磨きそれをキャッチするように意識してみましょう。今まで気付かなかった子どもの様子を気付くようになると問題意識が持てるようになります。それはとても大切なことです。

こんなことをテレビのニュースで聞いたことがありました。
中学校1年生男子が自ら命を絶った後に、お母さんにマイクを向けられた時のことです。

母「子どもがいじめられたことを知りませんでした。そういえば子どもが『僕は友達が全然いないんだ。』と言っていました。そのとき私は気にも止めませんでした。もっと早く気づいていれば、こんなことにはならなかったのに。もう、子どもはかえってきません。」と涙ながらに話されていました。

親の無念さがテレビ画面からひしひしと伝わってきました。

子どものサインに気付いて、子どもの話を聞くことができたなら悲しい出来事を防ぐことができたのではないのでしょうか。

「子どもが言わなかったから。」「親に心配かけると言って言わなかったのではないか。」といった声を聞くことがあります。

しかし、本来子どもは悲しいことや嫌なこと、喜びを親に聞いてもらいたいはずです。親に余裕がないと、子どもは1人でじっと我慢して、それが限界に達したときに自ら命を絶つと言うことが起きたりします。また、そこまで至らなくとも日々の積み重ねで大きな問題に発展したりします。子どもは話す機会が与えられず不満を募らせていくことも多いのです。

自分の話を聞いて欲しいと、幼児でも、中高生でも、高齢の方でも思っているのです。聞いてもらえると悲しみが半減します。喜びは倍になり嬉しくなります。悩みに、大きい小さいはありません。「その位のことぐずぐず言わないの！」と言う前に子どものサインをキャッチして適切な対応をしていくことで親自身も救われます。

親子が幸せであるために！

親の大事な役割の一つとし、子どもが困っていたら、心を込めて子どもの心に寄り添い、とことん耳を傾ける時間を作りましょう。提案や叱咤激励しないで、子どもの話到最后

まで黙って聞いてみましょう。心に寄り添うことで、きっと何かが変わります。

◇以下は、子どもの出すサインの例です。子どもの年齢、性別、家庭環境によっても異なりますが参考までにまとめてみました。

「・寂しげな顔をする・ただいまの声が小さい・部屋に閉じこもる・ぼんやりしている・親と視線を合わさない・布団にもぐる・ため息をつく・帰りが遅い・泣く・兄弟げんかをする

・大声をだす・階段をバタバタ上がる・怒る・叩く・脹れ面をする・友達がない・ピアノを止めたい・先生が嫌い・宿題したくない・保育園・学校に行きたくないと言う」等々

平成29年6月26日

家庭・教育部会

親業コンシェルジュ 鈴木由美子

* 無断転写禁止